

94
10
39

準貴

安政五年

公義被仰上
世五

安政八年

公義
作上



長政發年

正月廿八日

野洲市領地村々、
拾四挺、
市判、
去波丹波、
持系、

下野國初賀郡

一 沃地拾貳挺 玉月交各分元

一 沃地八挺 玉月交各分元

一 沃地貳拾挺 玉月交各分元

一 沃地八挺 玉月交各分元

一 沃地拾八挺 玉月交各分元

同國各換部一白

一 沃地零拾挺 玉月交各分元

一 沃地三挺 玉月交各分元

一 沃地六挺 玉月交各分元

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

一 沃地貳挺 玉月交各分元

一 沃地零拾挺 玉月交各分元

一 沃地零拾挺 玉月交各分元

合拾壹ヶ村沃地貳百拾三挺

但津巻場并津巻場同場と志と津巻

右拙者津巻と為北猪麻多公田畑と荒

百姓及進儀の秋支書面と通玉の沃地

貳百拾三挺百姓の領可申云為新中の

若右の沃地と西事は津巻中の元又と荒

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

与武百拾公限 沃地一戸

高類打ひらけ外叙生探訪し者本人
 不及中名之み人但し可為曲事一旨
 名夜中対面此誤砲之儀此人及中
 縦親子に事しる事府に誤砲預之
 條人にて實中儀當るに仕り爰候中対
 右之叙お肖し何れ曲事一旨
 名之み人但誤砲預之方より形在事
 為之め沙府の心と
 清名法南判

七女丹後

下野國初賀郡

清名平地

一 誤砲之疑 玉目之谷

子女院願
 子之拾石

出流村 疑戸

但清名場并沙府提向場之志云沙府の

右子女院願猪麻之公田畑と荒百姓
 及張女の秋史書面通玉上誤砲之疑
 百姓願四年子云為打中の云右誤砲

西事一往中の死又ハ荒い高頼打ひし
外ノ殺生杯波ひ志中人ノ及中ノ若主
五人組ノ一為曲事一有急夜中付島
此後胞ノ後化人ノ及中ノ後親子兄弟ノ
袂胞預主ノ外條人ノ貸中後曾る以
波乃及後拙者清ノ為比回事也其
右ノ此お背ひ志行也曲事一後言付名
若主五人組袂胞預主方ノ形及並
中ノ為とも此清所ノ上

在改元平年三月日討可一清石清為判

七波丹波也

右方通古料波程村波皇と色日波
上ノ書ノ如方清石清

世己年因代并松浦治去あ那ノ為地
田畠持事近年一清振成有ノ月
現ノ捨事ノ二割増ノ以ノ代及海後

方之沙南書山田子居山海東瓜
沙用着内藤池津支快江持系の反次
延合の延

肥前白願分基難養又由那
損毛の覺

一田田式子百四拾石八斗三升九合二勺
田田式子百石五斗八升七合八勺
田田式子百石四拾石五斗三升七合八勺
田田式子百石四拾石五斗三升七合八勺

肥前松浦郡筑前松浦郡
損毛の覺

一田田式子九百五拾石五斗三升九合七勺
田田式子百八拾石五斗三升七合八勺
田田式子百九拾石五斗三升七合八勺

右松浦郡

一田田式子百四拾石八斗三升九合二勺
田田式子百石五斗八升七合八勺
田田式子百石四拾石五斗三升七合八勺
田田式子百石四拾石五斗三升七合八勺

右北土部

右通為其氣候不煩其土也其地
損毛仕收以土

土月日附
市名

右科成大事書中知之色也其地
市名

戊午正月廿九日

朝鮮國を市用入金類及入方

追々々々々々々々々々々々々々々々

後母言と云武拾九日自酒以後

功向と拾貳費日程お酒に積

累給と費日程お酒に積

金五万あり元成負後及の損

及調節の心言おるり今日

志の七波振津もねり

志賀泉次郎持系の用人保田

西云云

但法勘定事以令銀元掛成
此云云以務と掛成済く反扱
お成爲月以預上波掛用毒身自最地
云云以事

朝鮮國を 市用之令類反言身

追て市預市前貸金 以寸識以

雖有仕合も好者以

市恩澤波國預中 亦波成矣

年三月十三日書及
朝鮮國令類反言身
此云云以事
此夜令五方三子有指
女作寸反用之波成矣
未年より未年迄云云

招て来旅 去子年令

起り月以の近年 亦波成進 機合卦

波國書格 候と以忌

市鑑察して波成以流世已年 候志

市法高察拾中自告納法以之察拾八貫

武拾宗之候納法は為年 候後是為年

此云云以事武拾九中自程お酒河漢為月

中 拾武貫月程お達以字云云以事

未月初旬にお酒以在仕友都合察拾

去貫月程お成爲年 亦波成云云

招て来旅 去子年令
女子三貫有死候令賞
大代云云以事
毎年云云以事
去方云云以事
別令云云以事
公事云云以事
此云云以事
此云云以事
此云云以事

金類考之代金之元法也元法
第一書方元法之元年之元法也
式子金之元法之元法也元法也
元法之元法也元法也元法也
元法之元法也元法也元法也
元法之元法也元法也元法也
元法之元法也元法也元法也
元法之元法也元法也元法也
元法之元法也元法也元法也
元法之元法也元法也元法也

元法之元法也元法也元法也

元法之元法也

元法之元法也

元法之元法也

元法

元法之元法也元法也元法也

元法之元法也元法也元法也

元法

元法之元法也元法也元法也

元法之元法也元法也元法也

子年中

一回貳拾二貫目廿七拾五二分

丑年中

一回金百五拾五二分

一回金二拾貫八百五拾五二分

寅年中

一回四拾五貫目廿九拾九二分

卯年中

一回四拾五貫目廿七拾五二分

辰年中

一回四拾五貫目八百二分

一回金貳百拾貫目廿拾五二分

亥年中 一 辰子と六年 一 出物

未年中

一回金百拾九分貳厘二毫貳毛

此年、辰年、金五貫目五拾五二分

以付年

右、通六年、出物三拾五貫目貳分

少重賞。以月之... 乃正... 市買...

市買

志實...

名料...

一...

戊午二月七日

馬喰町... 辰己... 皆無... 相信... 也内... 按津... 出劫...

但書...

對馬...

二月... 市買...

相傳不致受其害之
以知為所信也後
細名想此版也

二年

打淡願公不承亦不承及嘉也龍堪
於招取、災害且此今年之格外之
換毛膏以必也、乃支又尚或心配送
之朝鮮國之義道、與國北渡來
仕以對之、山時費不從也、夜信使來德
沖用、舟中、山使者亦每夜皆往
彼是存也、夫其也、言、以人痛
注在右、付馬信、山債附令、及已
二年、各自控、是酒、其也、心、山、大、依

等余、其也、山、儀、之、沙、度、山、海、云
前書、山、入、其、莫、大、儀、之、尚、其
如、行、振、養、之、儀、之、種、之、山、深、之
及、贈、山、得、云、積、年、之、信、欺、行、也
及、以、而、尚、或、仕、山、下、去、大、切、之、令、招
之、儀、之、採、也、辨、居、山、乃、種、之、勸、辨
也、居、山、得、云、中、之、以、一、時、之、酒、儀、之
建、後、山、以、而、下、海、回、依、之、儀、之、已、歎、願
中、之、山、後、每、利、及、仕、振、之、別、也、心、入

5
追々以段に極方口に去る御宗有るに於て
二年未名元一七日人持来りて出は事
朝鮮國より及入し所用に金類
市進三月ありて其後波國より其類
亦之後進し其後其後其後其後其後其後
以通及月功向に其後其後其後其後其後
其酒右に白拾貳貫目其後其後其後其後
其酒前に白反越酒其後其後其後其後其後
其酒亦に白反越酒其後其後其後其後其後

追々以段に極方口に去る御宗有るに於て
二年未名元一七日人持来りて出は事
朝鮮國より及入し所用に金類
市進三月ありて其後波國より其類
亦之後進し其後其後其後其後其後其後
以通及月功向に其後其後其後其後其後
其酒右に白拾貳貫目其後其後其後其後
其酒前に白反越酒其後其後其後其後其後
其酒亦に白反越酒其後其後其後其後其後

及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...
及入... 送渡... 中越... 右... 打... 取... 登... 右... 清...

清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...
清... 預... 今... 建... 皇... 和... 成... 人...

二月五日 國分三金

右科... 紙

戊午二月五日

朝鮮國

御用金類

戊午四月八日

馬喰町沙波不活貸附令以浪信
自去辰己未年分以返納方来
五月中之山形豫之儀及以預出
能本整心之預書沙波返納成
以之納之儀及以未五月中
山形豫方之書向沙勘定其以去波
按付方浪以勘定之調及取實之儀
名元一十少勘定之儀及取實之儀

持来山形人西云云

但書向山勘定之儀及取實之儀

四月八日百八日
書向山勘定之儀及取實之儀
三石之利金并之儀
別利金之儀及取實之儀
其之取實之儀及取實之儀
其之取實之儀及取實之儀
其之取實之儀及取實之儀

馬喰町沙波不活貸附令以浪信
對馬方浪信仕其去辰未其年
返納前之儀及以預出
山形豫之儀及以預出
其之取實之儀及取實之儀
其之取實之儀及取實之儀
其之取實之儀及取實之儀
其之取實之儀及取實之儀
其之取實之儀及取實之儀

即今年之時非常一用途以廣
行分納方之為也之得中然尚恐
心痛仕法在也然吏每度有預出
心多事存也得云格別以
沖懷情右去年納前分來
五月中之沙粒豫以以下重
正之內志行也之食調達也酒以
此後行分面沙也之運以成不
海井預出以

沖卷

扇實人之情

四月八日

戊午四月十日

去月廿八日中國國門中方之
五月十日中國國門中方之
三月廿八日中國國門中方之
三月廿八日中國國門中方之
三月廿八日中國國門中方之
三月廿八日中國國門中方之

北

戊午四月十二日

尚二月十八日曉府内浦口

公義の船中と建の船一艘東に

こまより同舟本村寄書知具少人同舟

以下由重信より各并薩州横濱所候

肥前横濱所東河蘭院人九郎公百務

九人より衆但為り清沙治通海

表より通海より衆候より清沙治

有りの法より大暴風より舟より由り

同日未より下別況清同舟より下より

業人九式拾七人の揚陸は年九有七人

の上陸有りの舟より復候有り同日

天氣快晴より五年より別況と通り舟

由り舟候より舟より復候業書及江口

舟より舟候より舟より復候業書及江口

公色より舟より舟書業より舟より通り調

舟より舟候より舟より復候業書及江口

舟より舟候より舟より復候業書及江口

舟より舟候より舟より復候業書及江口

白藤紀伊守抄曰波持系以外國
津用曰反扱の先中松平津候と抄曰
是出の由とて及身並津候と抄系
曰反扱及川久志然合の事と云ふ
と云々

今般逆長崎毒兼廻之と懸之氣
津船一艘一昨十八日曉對川府中浦口
來着之處津目舟木村圖書原
兼廻百五拾人餘の内三拾人餘返

揚陸昨十九日午之上刻比一同兼船
無得出帆者之儀此候津届中上徳候上

二月廿日

津右

右料辰大書書と和と色紙志候と云

津右

然右の用頼大と同日七夜丹波
津在府長崎の事あり是初後
たし通の通書と云ふと云ふと云ふ

山浦より居持系に格くふり用人中と
後流に相連る居持系に格くふり用人中と
成り三浦捨流に格くふり用人中と
居持

今般渡長崎表の系に格くふり用人中と
沖船一艘二月十八日曉對分府中浦に
來るに居持系に格くふり用人中と
下流に格くふり用人中と
追々揚陸同十九日午に對分府中浦に

沙乘船に格くふり用人中と
對馬より沙光中格くふり用人中と
此後沙浦中上の上

居持系
山崎東久

沙浦對長崎の系に格くふり用人中と
△及沙浦對長崎の系に格くふり用人中と
此後沙浦中上の上

四月十日

清君

山崎東次

右科成之門下は易知と云ふは

去月廿日清國同列中の方より夫若
西来たる二月十日方より母見と云ふ
東海に英國船二艘あり是後中東の
公色に清葉の^二以上要領
張福池

朝鮮國より清用は次復及出方并
追々之を成るる象 以居為年一候也
此より之次復百八拾貫目位あり漢
百三拾貫目位あり積る三百拾貫目位
お及り清の成りあり此所合五貫あり
之を成る候及り形之度程書及調
節之清の意あり今日之勘定書あり
永井玄蕃の成りあり山崎東次
持来り用人の成りあり

世承らば道にて成りしるお控ひ名目人より
 ち中少く之程沙同趣は 以對月此道
 以公物報金法出言こ外付統向一後亦
 沙年守方しし月お返しの者中と退去
 金銀片の掛は後為正月令片を愛
 形は之に之の情の掛想神の九扱
 お以當月の利於永升所の用者身
 の自前知の成をこの用極沙勘定せり
 七扱扱は此れとも預書子未介持糸

の内意の中意

朝鮮國より濟用之次銀反出方并
 追て之を預沙並具は 以對誠以延有
 仕合をわお初度との以

濟恩深波國預を承て、以候波也
 於波國後

濟之恩は程感話は破換亦補理

新止反用等身より或積は沙市進と卦

為年一候後此のとも百八拾費月候

戊午六月廿九日...
 朝鮮國より銀...
 金銀...
 濟用...
 追て...
 仕合...
 濟恩...
 於波...
 濟之...
 新止...
 為年...

お酒門漢百二十拾貫目位大坂と糸忌
之候中越の舟お達波中ノ由日中
相酒の苦沙燈いたの舟と三拾貫目
位のお女清し法言うら拾貫目位出進
お女中の然支世年別る由方お進
五百貫目位酒言のお女舟金五百
両前貸の候を頼りて金言方あり前
貸の法付去の七富ある年の金貸金
言方武子あり返酒残りの及残金

お方七子の百ありお女下波中一紙有
波中ノ舟お達波國の由波前貸
金の七よ此の候の由列出方由精
仕の末の舟波國の元ノ補り大難
の由前紙只及歎預仕の舟お進年々
連漢由方お進のりて言の由之由
波前貸の由候種の中流由水由
年一由言のりて由清し法言うら拾
貫目位の出増の由お女由東掃由

百三拾貫目代のりて去るのり
三方ありて原未未年亦年賦酒
合三子も為年一及越酒一
毎夜多々申預事 沙所の海
此言合五方も沙の言 以付右
三方ありて酒残少く及今亦以海
申預の然と云ふ
沙薩波國預中 通水 成後
河永淡出進 越向候と云ふ

雖有申取の右三言拾貫目外
或百貫目條五月六月掛云相違
及入 此河上の候と云ふ 越只今
安らむと此年一と云ふ又一派出方お務の
勢にお見多ふと云ふ貫目通申方お及
一申候と申候候と行合と云ふ及
預入合と申申候候と云ふ 以付申候
子方申預の候酒方候と云ふ
申候と申候と云ふ 拾ヶ年賦

此報の賣上代金を以て先程は酒仕
第一は報目方必是の旨を年々酒受
寺方式子金に以て之を割合通酒
に仕右に決括裁重に成厚
清の明量より下直に酒仕程海以
車預非以上

清右門

山崎東外

正月廿三日

右科成日向と物と色と成

戊午四月十八日

西里利加使言より先程は書付和解
一冊右に付沙見返に以て取成有るは
云沙に伏流文作との程あり沙達書
此係者前五月九日海防無事老中堀田
侍中と柳より各箇書居る事公用人
新成と渡り付より所於に務より用人
西云沙に取成あり作との方より振と素
此遠聞の事より沙に言ひ方を言はるは

然念之也等時也意重猶沙日席柳之
以振法及物極也也考合見山委
為首之儀也格別也叙密也文作振亦
一向亦如念也及此節

沙列侯棟之沙存矣也沙之亂也
備沙邦自人之心於合方之沙意味也
沙存沙古律也沙德也沙亦也亦與
之考也沙為時也沙律也也沙意也
大意一上通法固許也中載也也

作之方之也一揚也也亦成哉也存也
於及許沙亦業為及潤也也律筆
烟為繁三部也附紙於香烟中越也
山委也

上上長沙別思也也為在右沙書而
沙同意也思也及許也力也也也
沙作出也於又也作之方時也也
尤沙書而法合也也
沙代筆也勸法封書也也也也

市頭圖之頃至同列中一方より至若附
急飛之心中来い付猶尚時しは接衆
お考之に後お考之流刺しと在府中
此用入

寛壽院標し傳及出因後お考之
市代筆中後之日左し沙封書
此用書居し沙東以堀田標し持衆如
此之京中し付外國市用し及扱法光中
松平伊賀守源し此出山根守し俄付

市頭取標し傳しに余之し前し彼及
此去吏而之し此市し此出山根守し

舊而冬之西里至利加國より使節と以
此上作書翰之和解寫し并使節より
此出作書付和解寫し且沙意接
沙對話書等之沙封書此流書此
此一此成沙渡其後此臘廿九日同席之
此し不殘
此し依登

旅

亦自見其作付沙惡之家

上意早而猶示其作談之報之義都度之
同席之面（一）及通達沙達之法省
有洋兼沙封書沙派書在懸一
洋見仕山處不肖之私是年存安義
至沙府其後度每以使者沙請中
上並山然處正月九日法宅（一）家未
之者其百件以沙書付進之沙派之

沙次才自京都表上義妻曲

作進山處其

亦國沙安寧之儀也

亦所並其為在比旅之沙儀其後

猶亦委細之沙事情其達

亦聞猶其上以沙使

亦意其成沙同也

思正其為在私儀志在國之事一故

沙地之亦換柳雜畫儀義可有之也

進、一沙意接之上彼方より先出の
條約下案之箇条沙取編法剛除
其成り沙別帳沙度身見之示後以志
之休養早々中上以依沙法以之
沙事一説向有畏い先以進、一之
沙對話書使節より先出の書付案
披見仕非處和親交易易と成之被
さんう為大詔願有子言採与唱類
不容易事会中之付之之原意哉

雜量令林意外之詔類將茂甚教
不_レ_レ容沙一切之沙_レ使新案う出_レ次第
何_レ柳_二茂

沙_レ嚴猛之沙_レ法_二可_レ以_レ為_レ至_レ之處
自_レ國之沙_レ大事一_二分_レ深_レ以_レ為_レ書
沙_レ遠_レ意_レ沙_レ實_レ明_レ之沙_レ裁_レ斷_レ以_レ為
在_レ非_レ法_レ中_レ遠_レ國_レ不_レ熟_レ之_レ才_レ分_レ表_レ情
探_レ察_レ茂_レ届_レ兼_レ可_レ中_レ上_レ行_レ之_レ見_レ以_レ茂
之_レ沙_レ府_レ慙_レ愧_レ恐_レ縮_レ之_レ仕_レ合_レ素

叢書

公命沖天圖次中之法儀身好
此節沖談判之一舉一依治亂之境
火牌權宜之計略也
沖國家磐石之安也為保也
沖良策社所要之沖場合能
存存也而一之衝、彼方之貪欲之
邪念と自然と施也
沖遠謀哉可也為在免角

沖武威沖主張之行身至預儀
沖府以是等不敬之文言号忌多
身存也得云沖達之冲有之依愚
意之心底中上以直冲取捨
正以板身預作誠恐流云

二月

沖名

大科汝大身也切之也

沖名卜封

中山去寅年不時獻上は非以來
年間茂相之此上進之内取出方
之心元其好此方目方教少之法好此對云
不若沙儀此志右之教不時獻上之儀
對馬守あり其同度心得法立此對云
沖内急相伺其象沖元圖作核
中付越此付此辰中上公直沖元圖
可成下儀以上

沖卷

戊午四月廿日

四月廿日

山崎東成

右科汝お小其書出物之包是城

人多り其對教之て其目方教少其
口内急伺書沙用昔内藤他律守格
名用子居若元其公直此公直其方
沙用子居若元其公直此公直其方
其事一其方其沙用書今日右其目方格

高田子居山崎東外持系及次然合
高田子居山崎東外持系及次然合
高田子居山崎東外持系及次然合
高田子居山崎東外持系及次然合

高田子居山崎東外持系及次然合

高田子居山崎東外持系及次然合

朝鮮國人多於拂底并先年有賴
參勤獻上之人多於清室免以
以出志及入治中已耐其之平同旨
以出志及入治中已耐其之平同旨
以出志及入治中已耐其之平同旨
以出志及入治中已耐其之平同旨

三月

清若

右料渡大寺書物之包之紙之書

清若

去舟日清同列申方之舟之舟

舟之日清同列申方之舟之舟

舟之日清同列申方之舟之舟

舟之日清同列申方之舟之舟

舟之日清同列申方之舟之舟

戊午五月三日

水野出羽守承事ノ外ノ申刻

沙死去方

殿様法書其母方沙辰中ノ所漢

方内山付方ノ法忌服沙届書

法用書振坂中勢大補候ノ届書

引切ノ代中庭河七郎持来ノ度

然合ノ形事山知事成事落子ノ度

水野出羽守今外申刻死去

養母方

従方

忌三日

服七日

沙名

五月三日より
五月五日迄

五月三日より
五月九日迄

右ノ通忌服請中作對馬守

國許に在るに作付私云より先此候

沙届中上候以上

沙名内

五月三日

山崎東次

右科波小寺古切色岩城

右二付山前頼大法圓村七波丹波寺
左一山前書山前寺居持之寺
格之山波方根山前人中一と波派
頼也

水神市根寺今印中刻死去

貴母方

坂方

山前

忌三日

五月三日より
五月九日まで

辰七日

五月三日より
五月九日まで

右一通忌後法中の對馬寺國
許山前寺山前村私云より山前寺
中之山前寺用表棟山前寺法
此辰中と山前寺

山前

五月三日

山前東

右科波の山前寺古切色岩城

戊午五月七日

朝鮮國より所用の紙張本進
決り合ふ事ありて是後法行す
及り預之を果す日之半及り
各回の借戻中より是の今以法行法
之より月形又此より借戻の書面
たの通反調の用相の功定事の永井
玄蕃の法にの用相の功定事の永井
の用人及之を大集の面より出

但法に用相の功定事の及り

預半の字を承ふは承ふの内意中にて

朝鮮國より所用の紙張本進
決り合ふ波國より預之を果す日
の後行又波國より門の都合各回
の上書及りては通の用相の功定
の用相の功定事より預之を果す日
の用相の功定事より預之を果す日

廣東未年子年賊返酒前合二
為年一及越酒中上之返及年
沙信之より拾貫目出進にお
外二式百廿日余為月來月掛及合
里泊之廣茂今程及入以軍一
お成居下中少之加敷之逆お是行分
六百貫目通く及入夜折角對法
之在の場合一舟前貫目預通速
五波及也言一之部合機余波固

乃魚の汲人云一と遊中賊の沖勢
之の心此言返言向一速速之海忽
お之の盛衰之我お物一市式と基以
少痛之在の折角右此近年稀成
出進之心と速一前貫目にお角乳合
と失不進一機今先押移以る志
正私を入且志強念一物事の性以舟
此言と不夫預中一通速一前貫目波
此夜及全沖之事情と先預且以之

沙勒定調及扇實見多博若元
少動定之氏在交源物持系の用人梅原
十次郎西三の正

但本面の少動定事は所なる反調

馬喰町沙波町交會附合の對馬也
江原仕は是去辰年若己の子返酒前
中滞進の口自走の儀を頼ひはる程縁
之儀縁お懸出さるゝ相酒の如く達
お成事最の終るゝお建お酒中と

二月廿四日附札
書面云々辰年分
三百利令云々辰年利
利令調方云々辰年
移度お達ひはる程縁
物お移此云々辰年
納方云々辰年

縁付辰勿漏の儀を頼ひはる兼
不の云々の勝るゝお付非常の用途
お儀酒市にちある之得り中殆
尚惑ひはるの終事毎度お頼ひ辰
迄多事ある得る格別
御儀情云々辰年分朱七月申
沙利縁云々辰年分朱七月申
了仕の御儀辰年分朱七月申
朱利縁云々辰年分朱七月申

和舩往來之儀志以前より貞敷之
定有之每舩對馬守より波國禮曹
書翰持渡儀志府作右定式貞敷之
外不時之用向有之予舩往渡儀志
吹噓と唱對馬守印證有之書志
持渡儀志以耐唐志河志辰
志相調作往來沙度山右之文平志
舩波國と來着山時志和漂舩と唱
國所漂流之行送積荷物志及重

相紀王都に遂に進半岩浦と有
漕廻旧格之接急有之禮曹より
書翰相渡和應志及並山役人の
引渡渡儀志之舩と相附回有之
國許に差送山先規志其間経月
儀志沙度山是等志他國之舩漂着
子教志末高貴志法方之換以舩
例進志無沙度山自然今般之法舩
波國と沙度山寄舩と相成

公義之冲船沙府猶更事嚴重
不有之其期條對馬守役人其何根
周旋仕以時免角旧格也押之國風
沙府沙府志述沙府志法都令
其為至乃補且又沙船形并蘭人
乘組之法祝柄等不審好公廉
可有之身不並方當惑至極好
一對府之儀不絕朝鮮漂人在面在
殊更近之譯官使渡來之若沙府

右譯官使之儀志

公義冲度吊并對馬守右公守
其後渡一仍多人數後沙府志
旧格依對馬守屋敷支之度
相勤以外志

神君樣中宮一度參拜以耐度

一役與會應有之白已而其除客館
外口排細仕作儀之仕來以度作
然於對府蘭人共勝子遊步仕後

見聞此の古来より

御通信之國柄舟對馬島之親向版
不都合之不致有之此版不私為恐仕
作儀沙府山右身之誤柄沙勘考
江成下今般異域之商船入津港免
相成山次舟朝鮮國の沙打出版
い合て同波國の素對府沙舟船
沙見合其江成山の得志對馬島津
波藏之免難有為心仕山を風波の子

依古昔舟之為越江府儀成
沙府山之別版之沙儀舟之志
埤巾之儀志浦津之直回和方七里
程小之須深浦と申不之免上之浦柄舟
此和之居様船相成山の得志出本心之
沙儀と申好山の旨長崎の居込法同舟
本村景書振の國元より及人徳之
若是彼地苗島居之者同然此島用人
面會書面苗島知進高の居出書面

之統朝鮮之志外國歲時素所於
積對州之儀我相合居之
以法附札之儀達以時以年以不
以版中越之就者必分年事之事
涉度山得在國許之儀志地國之遠深流
朝鮮人不能在南地在北名前章之
決也

而明之志以版中而重表之國之
法教意朝鮮國之志也知以為在

作近志統而異國形之志也長海外
河之志地之志也系極涉府之志也
素國許之志也涉前船方之志也
以志中一法也知合之儀志也
以弗等之志也對馬守之志也
不私其心雖有年也
右之統也
而明之志也涉沙法之志也
以上

五月廿三日

山東
山東東分

右料紙亦書半切之包裝紙

物在以前那藤字之朝鮮國日茂
製糖所有之山脈山岳告知其成居山脈
近年至重表之國之通交之我成作
次戶海國之志容易之通報之我成
欲之其之物之異國形之山脈山岳
山脈山岳之山脈山岳之山脈山岳

山脈山岳之山脈山岳之山脈山岳
以上乃之國同列中方之山脈山岳
右之書面為之調協同換之山脈山岳
書面字之流胡鮮市用之山脈山岳
山脈山岳之山脈山岳之山脈山岳
山脈山岳之山脈山岳之山脈山岳
公用人大井右源右林右山脈山岳
後助而更書之山脈山岳之山脈山岳

朝鮮國之儀志述之年中上作通
性古之り

本朝与通信之國柄、沙府以文祿之
清一義之依

冲瀆交相絶、以如慶長四亥年

神君様冲瀆、意之冲旨、以前之通

朝鮮國与之、亦好之、用、以振先祖義智

年象

冲直命作、波國君、以共天也

不戴之痛、怨難解、以、沙府、以、也

種之換、心力、以、漸、以、年、日、慶、長

十一年、至、波國、兼、伏、以、至、機、會

相見、作、付

神君様、以、冲書、以、以、冲和好、儀、以、為

作掛、同、以、末、年、冲和好、冲請、之

信使、差、渡、義智、同、伴、以、理、登

兩大君、様、拜、謁、被

作、付、其、時、義智、儀、以、友、國、之、通、交、以、可

異國押鎮之職入令作換生家
上命且又其初前之通貿易

即免被

俾付之治事身谷山浦廳設

使船之負教開市并支國制捕之

節目尋在源

亦陸作上規則相互是返連續如節

一在在

一寬永十六卯年卯年卯年卯年卯年

入洋市制捕不身朝鮮國日者相達

以換被 作出引續進之於彼國後

嚴禁不有之在自然疑及船漂着

作志速在捕對馬与沒人可也後首

相達以換被

作出數度以使者及往後既正保元

申年廣東船三号一船五拾式人

乘組朝鮮國漂着之疑及後

有之則以捕對馬与没人可也後

作付相請取使者相副長湯湯乃等
送作交者乃內五人果乃邪法
者乃法仕並作付乃續
對馬守義成參府仕作交
大猷院様御座乃德乃賞乃之乃家
上意猶又以後朝鮮國乃嚴乃重
制禁乃方相達乃欲乃
作出其後連發追乃嚴禁乃方及乃津渡
作儀乃津乃府乃

一 竹蘭院之儀志其初方入津沙免

元作付並乃既實文乃己年乃志年
以前長湯表乃入津乃榮乃和乃朝鮮
迎海乃之乃及破船死乃免同國乃
漂着之者乃拾六人有乃山知追乃死之
殘拾六人乃內八人小船乃治乃五乃乃
道來長濟表乃之乃乃乃津味乃乃
八人志朝鮮國殘居乃乃乃其乃乃
沙為地乃乃乃作出乃乃乃乃乃

祿毛之上也那獲之邪流混雜
雖計以并情偽亦可同之軍事身
同六年年使者皆波波國之
返翰若上以處張八人之者逐取以換
被 仰出同七年年使者皆波相
請取長漢法事以和口皆送中作
依之唐國之素巧棠泥國通言周
沙免之儀去波國為知之前以產以知
棠人為時之法振合且今般異域之

商船入津沙免之儀不與相心將換
無沙府表立沙告知以前波國口和漢
法不致合之沙儀身好作

右之通那獲神制捕示之儀

本朝之為紀式百餘年法

堅約之儀中元來朝鮮去文國

通交之儀也

仰信義之重書翰之性法請會

總合為之至沙回格達以儀之承諾

不仕國風之版を素前章に屬し
御使明島在の通之儀沙府
作得た為其異國形之沙船羽辨
因國許沙船之儀付申預以次
少府の旨程又申添
御内種並に御對馬申申紙茶
下迄不私事情更

御明島江版申の儀申預上以上

御若内

五月廿三日

作須伊織

右科紙素申書少切と色岩極

戊午五月廿日

浪庭沙前貸令一版去月廿日及預之
因申一日以上書之九と云催促申上於去七日
心書由沙催促申上之旨申處之申沙沙
申之其助之申助之旨申方之申方之
沙催促之書由之通之洞沙申相

以勘定事以水升主事為以修以沙當
少務事今持事以用人女同陪苑會為
但以文類少勘定事以之及檢律事
預書字事今持事法由之意中

朝辭金
彼國之怨物之系沙庭舟福庭
貸令之候之及事預事通商年
年年之候之及事預事通商年
如酒之角之及事預事通商年

慶事未年之候返酒前全之
門揚之紙納之及事預事通商年
勝之出進之及事預事通商年
來月無之及事預事通商年
抄紙之及事預事通商年
對法之及事預事通商年
以通之及事預事通商年
進進之及事預事通商年
以上進之及事預事通商年

色如以每車難感之生於中
二首自之分一之遠河之成或子
是心以安以穢之擇移之於彼國之
沒人云之德之在何之在何中
時暫為之之凡見之者以之於
市之之為之在何中
見之而為之之難之之難之
出進之之之之之之之之
稀之出進之之之之之之

如遠之有之場之彼國之
言在減之之之之之之之
之為之之之之之之之
之之之之之之之之之之
必之之之之之之之之
厚之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之

中居

六月十日

山崎 奉命

大村 派日 向 寺 切 上 寺 成

戊午六月十日

馬場町 涉 汲 取 賣 財 金 涉 洋 信 向
去 辰 己 亥 年 以 迄 納 兼 於 豫 儀 及
涉 預 以 預 在 難 於 整 頓 系 納 書 以 迄
於 成 何 台 以 納 之 後 亦 有 符 又 之 車

七月中 涉 於 豫 方 之 書 向 以 勘 定 也 以

去 汲 於 洋 之 信 以 勘 定 汲 及 府 賣 金 涉
存 元 一 一 以 勘 定 代 書 氏 源 物 持 系
以 利 人 保 固 強 業 向 書 之 出

但 書 向 以 勘 定 亦 有 五 洞

馬場町 汲 取 賣 財 金 涉 洋 信 向

涉 信 住 一 一 在 去 辰 年 己 亥 年 迄 納 兼
於 涉 進 之 日 延 一 辰 年 預 以 廣 於 豫
一 辰 難 於 整 頓 亦 有 納 之 後 亦 有 符 又 之 車

戊午六月十日
幸 向 去 辰 年 己 亥 年
三 一 一 一 一 一 一 一 一
別 利 令 油 方 之 信
是 一 一 一 一 一 一 一 一
於 涉 之 難 於 整 頓 亦 有
亦 有 油 方 之 信 中 以

物之其速也如也中一之難付既勿論
後之其難也其難也其難也其難也其難也
勝之不勝也其難也其難也其難也其難也
何之其難也其難也其難也其難也其難也
如之其難也其難也其難也其難也其難也
每夜其難也其難也其難也其難也其難也
多之其難也其難也其難也其難也其難也
中其難也其難也其難也其難也其難也
之其難也其難也其難也其難也其難也

此後何之其難也其難也其難也其難也其難也
海之其難也其難也其難也其難也其難也

五月晦日

府實會書

即名肉

戊午六月十七日

馬哈爾之其難也其難也其難也其難也其難也
云居己其難也其難也其難也其難也其難也
其難也其難也其難也其難也其難也其難也

右之每元調少幼定其以去波揚津也
少幼定調及府實見其地者元
同之代本武源助均系以判人面寫
管出

但書面少幼定而否及調

育古以所元

書面至原年分
二在元利金二子年利
利金細而極是也
所之在邊公他粒條也
款亦整以是子之調也
二二五中

馬管可涉波不波會附金之月
對馬島相清社之在去之底已百也
通納方在清進之四日延之底年於此
以程錄之底極其整早之納方及牙

少依江以遠年長之物之早速也納
中中以與細竹之涉府以平又之惠之在
中之以通不如此意之務之句以對也
調金之物精之也之之在少以爲時
不暢通之調金不如此而之之今
不暢之刺途之若漢之調方之也
無少之大有爲也之痛之滿之在少
物之每夜之身之於以之之之
何年極利之也

中情信石納方事七月中
法程豫汝中進以且同領金仕
中納花下仕以此辰何分進以海
汝中進以花海牙彩以以上

中書

六月十日

府實之信

戊午七月督

朝鮮國より 中用金類元出方身
進之信預少所貸金多象 汝中進以
金五万之少多所貸金多象 汝中進以
之後北其とも金類納方之拾五貫
之百圓元和及川續式拾貳貫圓後
進百圓和納少長馬少信多より拾七
尹同案納誠多成者別之進之守
此其以別度人金五万及少所貸金及
少預立致致書及代節之少同之

仕後身利山入海之為去心半年
以常上之旨拾費員目謀北及出外
次中出之可也指言之稀成也進海國
不一通也積之成之也

即禮察可也成十年是進之新實之
助物志及補理之也為成也
新山反用思識官實物也捕海山
有之成也此初也入海身出指
注和遠教身也進之也

深之山政新實之也成也
及新係也山也右極現在者成之
中進之也成也波國諸教之入用
莫大也也也也是非先教也
及新預居也也全教新實之也
進之也新也地也也也
及人其也其也其也其也
取入也也也也也也
所和也也也也也也

換魚之不朽何似我作田名如之
此等之亦失布進方水續之如後
身利之場在故來用如之意之務子向
神道之正時非常之用速之廣此等
作願之在場中已編殘念身如
就史每夜之身如願事以當其在
右之記物石字
中願具月之成下以之別處新規
全五身之身如願事以當其在

中願波國願中身如之全教會渡
也永續中進之教向機之如之私
安心能有事如之是身如之如之如
中願察身如之進之如之如之如
全之身如之如之如之如之如
身如之願之如之如之如之如
少振之心身如之年身如之年如
全類之身如之如之如之如之如
第一身如之如之如之如之如

去方式子全之同共刻合之通返納
仕後其預山私願之り之全之返
異國之之室出進之抄物身不願
之身彩の条裁重之交厚
御明量之叙之直法沙法之極海
年預山之望

御書

七月吉日

山崎東介

右科紙白向生切之色事終

戊午七月十日

馬喰町沙汲和之貸附合の江信の
去辰己未年一と迄酒家来入月中と
沙猶豫之後古と通事面及調と勘定
事の七波下評と和の山勘定調汲
扇實之儀名元とと同日及女
長九郎持系と用人保田筆面云
差也

但事面と勘定和之及調

年七月廿二日附札
書函去之原奉分
台元利令三子刻
刻令納方之原奉
及之書達山也程豫
施書程此言子
納方之原及平

馬會町沙及原及原附令之對馬也
江信仕之在去原之去年一也酒前
也澤行遊之自是後也納方之原奉
之後施書程此言子
身原之於也也也速返酒之仕也
施計之在也也也也也也也也也也
勝之向也今之對非常之費也也也
何分酒方之原及也也也也也也也
為或人之痛也也也也也也也也也

每之身原之原奉之原奉之原奉
何年之原奉
即儀儀者納方來分中
江信仕之原奉
納方之仕也此原何分原奉
山信海身原之原奉

七月十日

扇實之書

即若月

戊午七月廿二日

云十九日涉國國別中乃有山石者
河東之東又五月十日涉國東海
其國船一艘相見山後中來舟
公過山涉業同之以上各細別記詳記

戊午七月廿七日

宰相樣口八朔御太刀懸之儀九通
此有書及調例書也此亦通用者也

同日附札
不及抄之

内及紀保書様口此圖書居之海東及
持来此書也其力之公用而之得也
此書也其奥口持入也其法出未月
亦用者因於下總書御口此書也其
儀二付吏より連三因御様口此書也其
掛合此書也其奥口此書也其
御卷書君様口此書也其
從對馬守未中上作

宰相樣口八朔御太刀獻上之儀

如何可仕作武尊同之儀以上

御書

七月廿七日

山崎東次

右料紙おし書切上包忌帳

例書

天明元年辛丑年

御養君様迄 仰出非節八朔

御太刀獻上之儀七月御用書様

御同作處

御養君様迄 仰出非節八朔

差上作以後獻上儀可仕旨迄

仰渡八月廿八日御沙夜儀之御太刀

差上作上御同九月朔日八朔

御太刀獻上儀以上

右料紙おし書切上包忌帳上書

例書上忌

戊午七月廿九日

馬場町沙段不_レ以_レ實_レ改_レ令_レ以_レ海_レ信
通_レ去_レ辰_レ己_レ亥_レ年_レ以_レ返_レ納_レ前_レ年_レ八月_レ申_レ日
申_レ猶_レ錄_レ後_レ以_レ通_レ書_レ由_レ厚_レ納_レ以_レ勘_レ定
其_レ以_レ去_レ辰_レ下_レ野_レ子_レ信_レ以_レ少_レ勘_レ定_レ酒_レ段_レ海
實_レ之_レ靖_レ后_レ九_レ一_レ一_レ日_レ之_レ代_レ書_レ段
海_レ助_レ持_レ系_レ以_レ利_レ人_レ梅_レ系_レ十_レ段_レ那_レ何_レ考
差_レ五

但書由少勘定前年之納

馬場町沙段不_レ以_レ實_レ改_レ令_レ以_レ海_レ信

辛_レ八月_レ十日_レ海_レ札
申_レ而_レ去_レ辰_レ亥_レ年_レ分_レ言
元_レ利_レ令_レ元_レ三_レ十_レ年_レ刻
利_レ令_レ納_レ方_レ儀_レ三_レ三_レ三_レ
教_レ度_レ書_レ事_レ以_レ也_レ程_レ後_レ之_レ
宛_レお_レ惣_レ此_レ辰_レ子_レ納_レ方_レ
の_レ以_レ反_レ斗_レの

對_レ馬_レ与_レ洋_レ信_レ仕_レ以_レ在_レ去_レ辰_レ取
己_レ亥_レ年_レ一_レ返_レ納_レ前_レ年_レ海_レ信_レ進_レ之_レ

沙_レ日_レ然_レ以_レ後_レ申_レ預_レ以_レ差_レ沙
杉_レ錄_レ以_レ儀_レ難_レお_レ移_レ心_レ以_レ納_レ方_レ
以_レ申_レ以_レ移_レ以_レ以_レ進_レ申_レ申_レ物_レ申_レ
早_レ進_レ返_レ納_レ以_レ仕_レ以_レ難_レ竹_レ海_レ信
以_レ差_レ差_レ以_レ申_レ以_レ去_レ辰_レ以_レ如_レ意_レ以_レ
勝_レ子_レ向_レ納_レ以_レ不_レ時_レ以_レ如_レ意_レ以_レ
利_レ達_レ差_レ漢_レ何_レ分_レ以_レ納_レ以_レ海_レ信

附不中... 痛仁
 此在... 後
 事... 年
 多... 年
 中... 年
 涉... 年
 以... 年
 下... 年
 事... 年

清名也

府實清

七月廿九日

戊午八月朔

朝鮮國... 清利... 報...

... 報...

... 報...

... 報...

拾貳貫月條お酒法請言より拾貳貫月
出越にお成り候も稀成候より程り
之より貳三百貫月より及入の約定仕
居り候中越り月尚年一候より酒
皆酒仕りより白濁来未子前より
及越酒仕り月合より新祝も
之儀申預り候より二万兩
去り及酒前貫より三万あり酒
子あり酒一より九千あり酒後
より

早速前貫よりあり候
然者

御國內より遠く天國へ成る業
入貫數及波國掛り者より元補
り酒前より難治り事情只若
仕り月此より上より漢出方
急度際立り候前貫より
中條より酒前括り候子より
入送仕去り月より前貫より

貳百三拾七貫五目廿酒二日二拾
四貫目拾陸達二貫。お女居二貳百
貫目拾及入。酒定仕居二方此二貫
右二連二付附。お女居二方酒二事二
山方度裏。お物二抄子波地二若若
汲人二在二中載。此今年一掃成
出博二五波二格二市二積二後二
清二貫二明二二為二生二天國二二五寶二及
以儀二下二也

市國並二一端。二海二海二何二抄二後
二五二五二仕二二二解二付二二抄二海二大二送二來
二不二如二意二勝二二向二二抄二以二處二深二酒二使
二波二來二大二造二二入二科二抄二二作二累二二二漸
二及二駒二仕二以二名二二後二二身二付二附二二二抄二二海
二二二二來二居二以二二可二一氣二合二二損二以二時二
二取二入二二酒二定二忽二破二讀二二二見二海二以二後
二深二二痛二仕二以二有二已二二二二私二二抄二二五二抄
二且二二殘二念二子二可二二二抄二二今二別二也

書進中右事情哀

市明察一丁或下以新吏或月之費

以對以以後收銀三百貫月之

市及以月六拾貫月日積共決事

市賣上仕代金之內之式子五百

束束年一之賦上酒市日反載酒

市之依之每夜必交市額事以

以得云行年市止格之法決之金七

新視列廣之市前會之得事

市額之猶此以式百貫日條反入

市酒中之得之為年一之酒之額各

貫日條之市或前之市右格之例

市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市

市市

市糧察平每度行分預之會
市貨波以下之預之會
返酒方之儀之例之振之來未之
拾年賦之預賣上代金之
方港之酒仕方一書方不足之
年之洋受之方或子金之內之刻各
通返酒仕方之預之折物今預
傳之預來之運之在之速之海法
以下之預之會之出之振之波之先

出進方急夜之預之預之振法
運之會之預之預之預之預之
市國門之出振之遠之預之預之
市進之折物之預之預之預之
市市之預之預之
市明之預之預之預之預之
市預之預之預之預之

八月

市者

山崎東

右料成日同字切之包也

戊午八月七日

為四月廿五日塘田後中子侯步以宅
以同書居以所成書以渡身被
好見以文又無雲利加條約為以元
之儀系初台以信進以尔以儀
初谷之步書封字一通傳 奏議
奏後中子侯以旅宿台以物系以書封

寫一通右牙 中好之為之氣以信方
海中書侯之清派達一通以封以牙
早迷之書清之名飛若之特業書及
本与花古急席國反計步渡之
以書封類謝記以紙
中存步之為立以之步答書取調
早急步紙方同人以古步官也步以
是也步之步答以 作上並作末
之文別候

書道遺藏身外國用此元極步月
光中太回傳後者候日此國者居
山海東介持系於此揚在公用人
城江平治之清而更考之次第相以
新出此與之此成以流在
此度無墨利加國條約為以取證之
方之步史者別候以
印使
藏之書成步同作處

勅發之印自發之為
在作付當四月廿五日迄宅家來之者
在石呼以印書付
勅答之
作也之印別紙步渡委曲之印渡之
步首證之并見仕作處素就筆之
藏之書者不之為
在報作時去方今萬國形勢
一書及之折柄

中所謂置之次序之宜可也而志忽此維之
案相成

中全國之步大事及公

中國家之步為不相成可也
宸襟期後以為

在同教作對先般京都口口

作之作外步扱方學

思名作且今度步之凡議口

團台度之儀者既昨年來各

存考中尋之上之儀者以得其

勅設之類後以為

在作付猶篤與致勅辨好之類

早之可中之之步事也長作

中國家步每免之古場公孫為竭

中詮議以候也思也元之極守好以

既當春茂步達之古旨依思意之

心慮以封書上上並以通之儀此其

別候好之思之亦後之步度只之永世

中國家市安全是為每
歲之惠上下各堵之道
市賢明之
市所置存至預作此版市請中上級
誠忌謹之

二月

市名

右科儀大等書並切上包頭德外上書

市名市官封

水野出羽守松山死之候
殿様沙羅知事日繰りお成り付
右之由申書書用番回部中總務候
以田中名山濟南公拘系以死次惣合
市公山名又死成以病候に成り付
退去

水野出羽守丑月三日死去

養母方

使方

市名

忌三日

五月三日

服七日

五月五日

右之通忌後法可中之處日救

相之上於國許波義急作付

今十七日一日遠三急仕以此候御届

中上作以上

六月十七日

御名

右之科儀大正書切上包書流急上書御名

就者少用新大正同分池田播磨書信

右之少在書山田書居相系之松急用中

右之紙添預也

水柳出相子五月三日死去

書冊旁

頃才

御名

忌三日

五月三日

服七日

五月五日

右之通忌後法可中之處日救

和立山王能國神六月十七日
義知社以舟一日去志惠社以後
對馬島より歩充中換に歩居社
舟此後中上以上

沖若内

山崎東介

八月七日

右料紙日向切と色紙

戊午八月十九日

今夜

沖中陰河沖横橋船主少弱達表

山平又未夕

沖養老石様江 出山後少い事

沖後儀船主不取海右既及八朔

沖太刀船主儀為可仕式之者何如

不及船主儀少音系有之以後

沖中陰船主儀程更に誤り遠筆在

君曰禮記
先格通教
以格之仁

右卷步河書元調步用番同部
右卷步河書元調步用番同部
右卷步河書元調步用番同部
右卷步河書元調步用番同部

但另類換以務子... 右以對... 通... 通... 通...

此度江 作出之通
上樣 亦卷樣

分壽院換

對馬守於國許兼知之上獻上仕
作之同後相成

其後中上兼知以前獻上仕作先例
右卷作處

亦卷長君樣
亦出作後兼知
亦前之對末古從儀中上作後之

上様何申様煉獻上之儀如何
可仕作或此後申用之儀以上

御名内

八月十九日

山崎東次

石科紙系等書切上包号等

戊午八月廿四日

三條町沙波不没賃附金少海内去也
去年沙波込納系申申月中上之儀

左之通書申少酒込納定多少
野少納少少納定酒没府賃定儀
一之同代如田長長持申少利人
保田神樂申少申

但書申少納定系申少納

馬場町没不没賃附金少對馬少

三之元利合并三年納系納

三之元利合并三年納系納

三之元利合并三年納系納

三之元利合并三年納系納

戊午九月九日納
三之元利合并三年納
三之元利合并三年納
三之元利合并三年納

元平の病は終遂に世に絶る事速に納
めはるる難付に度々為る事難に危し
惜しむ所なき事難に世に絶る事速に納
め納りて世に絶る事難に世に絶る事速に納
物事成る事難に世に絶る事速に納
何事成る事難に世に絶る事速に納

中保の病は終遂に世に絶る事速に納
めはるる難付に度々為る事難に危し
惜しむ所なき事難に世に絶る事速に納
め納りて世に絶る事難に世に絶る事速に納
物事成る事難に世に絶る事速に納
何事成る事難に世に絶る事速に納

中保の病は終遂に世に絶る事速に納

八月大旨
中保の病は終遂に世に絶る事速に納

戊午九月二日

中保の病は終遂に世に絶る事速に納
めはるる難付に度々為る事難に危し
惜しむ所なき事難に世に絶る事速に納
め納りて世に絶る事難に世に絶る事速に納
物事成る事難に世に絶る事速に納
何事成る事難に世に絶る事速に納

中ノ及為合ハ九海音以唐振打合
 收来事書我田代海ノ事書中其處
 梅ノ名同ト先年ニシテ名田酒造梅子
 中ノ及為合ハ九海音以唐振打合
 收来事書我田代海ノ事書中其處
 梅ノ名同ト先年ニシテ名田酒造梅子
 中ノ及為合ハ九海音以唐振打合
 收来事書我田代海ノ事書中其處
 梅ノ名同ト先年ニシテ名田酒造梅子

方ニ力持キ
 方ニ力持キ
 方ニ力持キ
 方ニ力持キ

荒原園地

日田代

池田

別唐

本村百姓

渡渡人 惣太夫

以備其兵川切及中庭海軍所將系
 涉元波御合及出以屬涉少居及成
 事之不事一之邊云

對馬守國將之七月何中捕獲之
 涉連狀及越以久年

慎德院様燕記涉涉中張之及
 及出及中及及及出及中及及
 涉居及及以上

涉居

九月七日

志賀貞盛所

舟浮標及△書狀

右料紙及△書狀及△書狀

去有涉國國列中及涉及
 及事及及六月廿日涉國西海及
 及二艘及及及及
 及及及及及及及及及及

及及及及

八年九月梅白小洞礼
書會堂之原年合
二日方利金之二十年利
利金納方之原年合
利金納方之原年合
難如想以長子之酒方
三月廿一日

馬喰町歩沙路利金納付金
對馬島津信正之去已亥年
返納前未清夜之月日成身形
是之進之通之成通之信
納金納金之元利金若三年利
利金在早之納方及計之信
年長之納之通之通之通
難付之信之通之通之通
之通之通之通之通之通

昔漢河之通之通之通
為其心痛之通之通之通
幸之通之通之通之通
之通
中儀學右通方本十月十日
此之通之通之通之通
此之通之通之通之通
此之通之通之通之通
此之通之通之通之通
此之通之通之通之通

中儀學

九月十三日

府寛之坊

戊午九月十五日

物報國より及ふの事用之候様納言
進々、おまゝの御付去月冒令七方、お新規
別慮の御貸之候及、御出候目付首
此等御貸之候を、未了各段之御付首
預之候も、先々難お整ふ、御附札
預書此等返、お成今日又、武拾貫目

お納猶此跡進々、お納の御付首先預
之通、此等新規別慮、令七方
此等御貸之候及、御出候目付首
及御納、御付首、御出候目付首
お勘定、御出候目付首、御出候目付首
志賀、御出候目付首、御出候目付首
但令、御出候目付首、御出候目付首
預之候も、御出候目付首、御出候目付首
お成居、御出候目付首、御出候目付首

送尤以用類也勅定其以核之因
至水正依也預書字謝次府持示
以月意中込並

令報府也其貸取之候是也此用也若
各下形形也之此如大依以預之候
諸向形形也之此言也府令府以貸
之取也押取之候是也達也此也押取

至

朝鮮國より 亦用之候報及出方付

亦不貸取之候也預比度毎百少少
法取取下誠以難有仕合也存右

亦恩澤之

亦陸也以彼國預中之取之候貸取也
以依於彼國也

亦特恩感服仕極不度補理も亦
新心及用之元也彼成以而競る
出務仕也取より昨今年出方相進
既為年々候年々也云云一七三

按武費自條中仍涉債言より拾
式自條出越にお成り候と務成候に
涉存候と云ふ所武二百貫目より及今
約定仕居候中越は付為年々一賦
上納前各納仕候志勿論未未年亦
三子あり及越納仕候月令五万兩
新規涉前債に候旨預出三万あり
涉債返済に下る存候と云ふ三万あり
上納涉式方よりあり云九子あり下渡

涉下は付子連前債返済に取らるる
以下中山統處

中國內年遠吳國に候旨案亦之
入費殺殺波國押し者云々元々
補ては下不中難堪し事慎み言
歎預仕候此上連涉出方お進出候
出務候志急度除之品大波前債可
遣名約送仕候程、入送仕去月
此等債以後武百之拾七貫五百月

中納言淺六拾遺自祀達之運中
居之之式百貫目祀及人之河定住居
山方此言も右三意中貸附之京之
渡不中一してと山方廢表お指し
彼地は多事お役人云より中越此
不也之之晴も不時非常之也
以上決之使に渡り付るも大造之
入費雜及自方振之代略と及贈仕
中納言及出方貸附之にお之不

博中殘念子方且も甘心入り
止り前貸之儀申預此書而
之儀未乃合後之
先雜お整多し
然支每度及心多申預事
先預中
作付山以後式百貫目
六拾遺之目祀文中
五百目加敷仕者式に合之百式
自祀

此夢之仕山内より武子五百為志未
未年一、賊之酒あり向に及越酒仕
加之為五月三子あり及越之酒仕
あり及之より五百あり酒仕仕山に猶
此酒武百あり自除及入之為定仕居山分
尚月未月掛山夢之、積中之並
山處此言五拾貫目大坂之者仕山内
武拾五あり自お達山内並に銀座に
此酒中の残武拾五あり自之あり百中

着次第お酒山内一仕山然處尚美
即來大銀之及越酒仕山内あり於
朝鮮及入方之都合銀座計あり
支尚感仕山内
即酒貫系後一為以下為年一、儀志
者補山史抄教及入山ありと來年
より、目為仕度掛役人云必心
心配仕居山中あり、此酒武百あり
及入之為定仕居山分十月十月掛

皇朝之人心博之在是也言九百如自
近也或一市或前、一市、右、左、所
之、所、府、格、別、際、之、山、出、進、一、身、而、之、
為、定、之、通、定、中、之、出、政、前、貸、不、
遠、一、之、之、之、之、應、善、遠、為、之、也、
忽、氣、お、と、換、打、角、及、之、之、為、定、之、也、
成、の、計、相、事、一、疑、或、係、國、風、分、際、
事、一、より、万、事、一、街、法、向、之、也、
難、保、送、或、仕、山、辰

市、憐、系、或、成、下、山、根、甘、作、山、右、吹、浪
及、出、方、身、實、多、年、來、通、沙、誘、菜、
重、山

市、地、漫、流、那、今、年、候、出、進、之、
漸、安、心、之、際、中、方、一、前、貸、貸、遠、為、候、
入、連、之、入、お、生、山、之、不、私、係、甘、恐、入、
殘、懐、之、限、決、才、石、子、文、為、分、分、當、業、
行、分、先、預、之、通、新、規、別、慮、令、七、万、兩、
也、是、也、實、文、作、付、或、成、下、山、根、甘、預、山、

物之取

冲産彼國預中_二出_一貸渡也
亦吹浪及_二方_一連淡為仕誠以安心
施有甘_二存_一出返_二酒_一方_二を_一以_二と_一
以振_二若_一未_二未_一年_二あり_一十_二年_一賦
吹浪_二夢_一之_二代_一今_二を_一以_二為_一返_二酒_一仕
弟_二吹_一浪_二不_一定_二を_一以_二年_一之_二治_一受_二幸_一方
武_二子_一今_二を_一以_二以_一割_二合_一之_二通_一返_二酒_一結
此_二等_一之_二以_一每_二、_一忘_二怖_一之_二を_一以_二甘_一存_二出_一得_二云_一

異國之_二至_一寶_二及_一方_二之_一駭_二引_一不安
場合_二之_一圖_二を_一以_二失_一山_二派_一強_二心_一之_二餘_一預_二以_一
奉_二情_一

亦_二明_一意_二以_一下_二預_一之_二通_一速_二沙_一沙_二法_一
多_二下_一之_二以_一志_二を_一以_二志_一之_二以_一志_二を_一以_二志_一之_二以_一志_一
亦_二お_一渡_二猶_一又_二お_一望_二中_一担_二以_一旅_二仕_一度_二
乃_二心_一

亦_二國_一道_二之_一一_二端_一之_二甘_一存_二好_一此_二之_一及_二出_一方
出_二精_一為_二仕_一度_二不_一顧_二心_一之_二甘_一存_二好_一此_二之_一及_二出_一方

井伊侯公之事狀

右科紙抄小字書生切上包紙

戊午九月廿日

沖國田代京大坂且北土松浦毒夜
初更の辰分迄京門及北海舟中書
沖國田代總領事の政事年表
大正四年九月廿日撰

沖國田代中庭源七郎持家等
請名書及序

但田村伊藤等在大正四年九月廿日
沖國田代總領事の政事年表
沖國田代總領事の政事年表
沖國田代總領事の政事年表

一切支丹宗門徒前之之解怠今以相段
先年之沖國田代總領事の政事年表
私願中并為沖國田代總領事の政事年表

所之至近遂有牙數金家中之者下之至
是又設會議之處不審成者之有府事
一願中并為沖之當成下之地不在之所
家中之者下之又者之至之若此以後不審成者
於有之志早速下中達事

以上

安政五年八月三日

沖若沖友判

田村伊豫守後

大沢豊後守後

石科紙行村紙師之徳色包同紙之書中

戊午九月廿六日

為年年諸國人別帳及九月迄之月
皆由後家之御大月身積より當
二月十日迄達首山村沖國田成
其子為北山所分之人之先親之通
帳面仕立之書之御大月身積田

據麻呂島振口山田等處引切之代申延
派七部持系引判人惣合等事

對馬國上縣郡

一人教七千三百拾七人

為年七月改
為歲之り

内之子五百六拾七人 男

同之子七百五拾人 女

同國下縣郡

一人教五万五千五百八拾貳人

為年七月改
為歲之り

内六千四百四拾三人 男

同五千四百三拾九人 女

肥前國基肄郡

一人教五万四千六百四拾九人

為年七月改
為歲之り

内五千九百三拾九人 男

同五千七百拾人 女

同國養父郡之内

一人教四千貳百九拾九人

為年七月改
為歲之り

内貳千百九拾三人 男

同貳千百六人 女

同國松浦郡之内

一人教四千三百九拾人 為年七月改 為歲より

内貳千三百拾三人 男

同貳千七拾七人 女

同國筑前國怡土郡之内

一人教貳千四百九拾六人 為年七月改 為歲より

内千三百四人 男

同千百九拾貳人 女

同國都賀郡之内

一人教千五百五拾六人 為年七月改 為歲より

内八百六人 男

同七百五拾人 女

同國安藝縣郡之内

一人教千九百貳拾三人 為年七月改 為歲より

内千五人 男

同九百拾八人 女

同國安藝縣郡之内 一人教合四百五千貳百拾貳人

内貳万二千貳百七拾人男
同貳万千九百四拾貳人女

市朱平地下野國都賀郡之内
千手院順同國安孫郡之内普同寺順
有之得云先親之通平寺相面中山
右志對馬國上縣郡下縣郡肥前國
基肄郡養父郡之内松浦郡之内
筑前國怡土郡之内下野國都賀郡内
安孫郡之内宗對馬守順分并

為沙子當立成下山地不男女
人數書面之通沙府山以上

市名内

廿改五戊午年九月日附
志賀島次郎

市勘定所

右科紙種村帳面成月一上同紙

注紙被一書之方不二書之方不
何可也源治部平押之儀之志不之
公儀志之方書注紙之

右帳面并儀之上下書之通

對馬國 上縣郡 下縣郡

肥前國 基肄郡 養父郡

松浦郡 人數

筑前國 怡土郡

下野國 那賀郡 那務郡

伊豆門

志賀貞源次郎

帳面若乃之山符書紙志若前抄除

再山文文化七年年
家若亦知德山
打德年亦文

戊午九月廿八日

去月

沙飛札
沙禮
沙禮
沙禮

沙飛札
沙馬代
沙日深

公方棟
及調沙
一切
沙卷君

於國許兼知仕沙祝儀之使者志
素右沙祝儀之沙禮頭為請作付
沙祝儀之飛札且右沙祝儀沙令
沙馬代獻上仕作付之使者逃
到省可仕之處今般
慶沙沙遊作使兼知以本國許
出帆仕作付
公方樣口之沙祝儀口書類等志
部にお控

上樣口沙祝儀之口書類服坂
中勢大捕抄沙名宛之口裁作分
沙用番抄口宛出可中裁此使等
伺之作以上

沙名内

九月廿八日

志賀貞次郎

右料紙お小書去出切之色紙

戊午十月朔日

去月晦日沙用者内友徳得度之申

波高のいしは投扱ははとてをこし書書
中領中無く候らるる遊云

の日の書書元

白書と通れり付

の候てはを差去

前日月書書と書書

以筆

沖養君様は 公儀後對馬守於
必許義知仕沖後儀之使者と書右
沖後儀之沖禮は為清公付るに後儀
先礼且右沖後儀沖書日沖馬代
執仕公付るに使者進に到者仕書
公儀

先礼沖遊の儀義知以前必許出帆

仕付

公方様は 沖後儀呈書類号を

却らね控

上様は 沖後儀呈書類服坂

中務大輔様沖後儀呈書類越以公

清利様様は 公出書以候

沖内意事例之候

沖後儀

九月

志賀貞盛所

永永六世年九月十日沙爾
牧野備前守候方通事同公處
沙爾札通事 候

奉壽院候沙爾札通事候對馬守
於國新義知江守候沙爾札通事候
到着て候處久候

豐記沙爾札通事候以前國新出帆江守
上様候沙爾札通事候沙爾札通事候
沙爾札通事候沙爾札通事候沙爾札通事候

下り候事同候

九月十日

沙爾札

此得て居候事候札通事候
差出り候て候

戊午十月二日

馬喰町沙爾札通事候
辰巳去年十月十日

世所汭方之法此後河分之沙沙海
之經海東極之口

汭者

扇寬之塘

十月三日

戊午十月十日

今叙

汭卷君

作出此後朝鮮國

沙告知之儀法先格之海之儀系判使

張多波方之沙南書目右方波國

張多波方之沙南書目右方波國

右之通及調為時朝鮮用也

治先中極之沙南書目右方波國

中勢大捕極之沙南書目右方波國

持系之用人而云之者此沙卷

故中身之沙南書目右方波國

今叙

汭卷君樣作出此後朝鮮國

以使者為告知非極可仕非此候
亦補中上非以上

八月十五日

亦名

右料底大書書切之色之紙紙之

亦名

亦卷君樣之 作出非對朝鮮國より
對列迄以譯官使沙祝詞中上非極
波國に中遣非裁其國之非以上

八月十五日
丁卯月通

八月十五日

亦名

右料底大書書切之色之紙紙之

亦名

例書

一文昭院樣 亦卷君之

作出非節朝鮮國より對列迄
譯官使沙祝詞中上非

一文恭院樣 亦卷君之

作出非節右同極譯官使

新渡河祝詞中上作
以上

右料紙大書去出切色紙法紙等書例也
認

戊午十月廿四日

馬喰町に居るに貸付金に相借し向
去辰己亥年一返納ありしに
去月中に相借ありし書面を以て

奉行に渡り野中辰己に相借し
源助相借し用入係田筆面を以て

以書面を以て相借し向るに

馬喰町に居るに貸付金に相借し

相借し向るに辰己亥年一返納あり

相借し向るに辰己亥年一返納あり

相借し向るに辰己亥年一返納あり

相借し向るに辰己亥年一返納あり

相借し向るに辰己亥年一返納あり

青首山附札

書面を以て辰己亥年一返納あり

三ツ元利令三ツ元利

利令酒力に便し是を

相借し向るに辰己亥年一返納あり

相借し向るに辰己亥年一返納あり

身親通如如意之福高向此今
 五附非為之利速若漢河分
 多酒之口候打之兼味以成感
 胃痛吐之立止物支每夜多形公候
 身多入山均失河平極列之
 印多許若若者必死來三月中色
 以程緣以修身或下夜物之精之
 如身之酒方之此公此候河分宜身海
 或身後海身輕公之

年十月廿五日
 清若門
 肩寬三寸

戊午十月廿九日
 若殿樣沖嬌子成爲山嘉如後今殺
 朝能國之語信使渡海七月六日
 東流山若語如康持渡之書報此言
 如達古之東流聖日之法月附之竹
 叙之也言其之運之山均古及矣着以竹
 在之山南半如原半指一節山運之味

派与涉用番服坂中幣大猶抄也
箇与居一切也代中庭海也所抄来
公用人出開務在案面今与出也
与

但今福物新涉用字中充中抄也
比付本文通涉用番服坂抄也

中庭与出也

公義涉度吊 記言也
与日也日附也

涉自介様也 記言也
也起礼也

一筆抄語上作

公方様並涉様様能可義成涉度
甘心悅非也者嫡子勝子代弘之
為嘉儀從朝鮮國今度譯官使
涉渡去月十六日對府参着服六月日
對話作處彼國靜澄之中中以依之
從禮曹参議之書翰為涉披身也

此辰為可中上捧愚札作恐惶禮

七月七日

堀田備中守棟 涉汲沙光内

松平伊賀守棟 等分即名

久世大和守棟

内藤紀伊守棟

服部中督大補棟

書指大旨相渡貸入

封平家通光仍能う入来以運送
不入掛合坪下平致少切書
第之上下半貸之上下半通押渡事

○嫡子勝子代弘之為嘉儀從禮曹奏議之書翰并別幅

對馬守嫡子勝子代弘之為嘉儀
從朝鮮國譯官使光渡六月十六日

對府到着仕七月六日對話おぬいり
先格通持渡し書翰為沙技見
若し分り七目家來と附託上船
中付並作處不順と數日滞船仕
居山右家來病氣多記若中身
時日延し仕作候國許より中載候
亘 沖國渡來並に候也頼以上

十月廿九日

沖名内

志賀源次郎

右料紙おき昔年お切り也是故

書物和解

春暖し新沙平也孫等其好ん

總て今夜

亂子も沙之沖隣証の方大收

不るも昔好ん今夜祝言並度沙

祝詞中より種あり古直致進言し

沙收酒言下い致茲不伝

月日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

朝鮮國禮曹叅議李

崙夏

奉書

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

春序已仲，緬惟

興居安迪，逖聞

胤子夙著，令德丕承

嫡統，堂構有托

緒業攸輝，其在

隣好曷任，賀慰令差，象官替，伸遠忱，仍將

菲儀庸冀

領畱敬茲不備

戊午年二月廿日

禮曹叅議李_子崙夏

奉_上 旨 中 諭 旨

日本國使臣_出 人_等 奉 命 宣 讀 奉 旨

禮 部 奏 為 奉 旨 宣 讀 奉 旨 奉 旨

別幅

人參伍觔

虎皮叁張

駿馬壹匹

鷹子伍連

各色緞拾匹

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布拾匹
白木綿叁拾匹
花席拾張
四張付油菴伍部
黃毛筆叁拾柄
真墨叁拾笏
霜花紙拾卷
花硯叁面

際

戊午年二月 日

禮曹參議李 崙夏

戊午十一月二日

公方樣 薨 濟州 辰 朝鮮國 沙 告 知
辰 沙 先 格 通 大 計 參 判 使 以 爲
渡 子 之 濟 州 書 目 然 右 彼 國 之 子
大 吊 讖 信 沙 拓 子 之 濟 州 書 在 之 通
反 調 今 福 胡 能 沙 用 弟 之 法 光 中 核
今 之 山 沙 用 香 松 平 和 泉 之 核 以 爲 子 核
山 濟 東 友 之 東 之 用 人 掛 合 乃 爲 之 如
真 口 持 入 帳 之 其 出 沙 用 書 之 法 亦 亦

其 麻 布 拾 匹
白 木 漆 漆 拾 匹
花 席 拾 張
四 張 竹 油 尾 伍 部
黃 毛 筆 參 拾 柄
真 點 曹 翰 筆 李
齋 米 在 拾 長 日
花 籠 參 面

戊戌沙洞書之是乃之及法也

候中少少以有相中中中

公方樣以遊 薨死

以使者為告知作換下仕作此候

九月八日

御名

戊午五月官の御札

公方樣以遊 薨死

對列近以譯官使御吊詞中上候

彼國に可中遣作式有伺之作以上

九月八日

御名

右科奥の同書の大事書也切上之包美法也

上六也御名

戊午十月九日

朝鮮國より出候及出方為候

三保中五甲辰色等彩浪度有候

向子五百支年五未之利分若
少貸居之貸之後年滿年終
去冬五年亦之利依五年貸居
江以付年未年去元令皆納之
奉納之得在近年以浪出進之
折損之意外先其若相与返納之
口限能相之額若為亦此未五年
以貸居之貸付方節之向之若之令
書有元調少物定其以松少積少掛

之田之水正根台以田与居山滿東今

持示少用入面令与以也

朝鮮國之市用之吹浪及也方

力之為之甲辰年有預泉依浪度

法有除金之向之五百支年五未之

利分若五年之方少貸居之

以付年未之後年滿分引續

少貸居之預積又同矣其年終進之

其年少貸居之以付年未年

三月上方山附札

書面常是積金全子

五百支引續貸居

之後引分能引方右田

依後居殿之向之右

全之五百支年未未分

其之五百支年貸居

引分若之五百支年

引分若之五百支年

引分若之五百支年

引分若之五百支年

引分若之五百支年

野州清の地、西門の法書信好

高没金右細の清の屋帳

一

野州清の地、西門の法書信好
高没金右細の清の屋帳
一

心政何世家之成爲

了

家之成爲家之成爲

賞

所之處也

十野國書院部

一高武千七拾九石五斗式休七合九夕 六ヶ村

但所之處也

因國於賀部

一高武千百武拾武石八斗二升八合五勺 五ヶ村

但所之處也

高合四斗武百武石二斗六升八合四勺六分

此之汲汲也

古智六拾自

此合武拾五之分報拾五之分七毛

外

寺前東北

寺前院順

田國新豐郡

一高五拾石

寺ヶ村

寺前東北

寺前寺順

田國新豐郡

一高拾石二斗

寺ヶ村

寺順寺合六拾石二斗

此高五拾石八斗二厘 但右角以

此合寺合報五斗二厘

惣寺合寺寺武百六拾石六斗六升四合零六分九厘

此寺高報寺寺員武百七拾石五分三厘七毛

此合武拾寺寺員報拾石五分三厘七毛但後庭寺

右寺寺己年十野國稻寺門大寺門

寺前寺門 飯良瀬門通以寺寺法寺寺回國

寺及寺寺寺通寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

納中作以上

長政三年三月

津若菜車
山崎 東合平

津勅定所

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

戊午十二月十九日

朝鮮國より津用之令頼及入子行

追之依頼津前債合江表

仰由七月津前債以後之納子五拾

十貫武百同余由年中之貫子却合

百六拾三貫同預之納子お成添之

格列之生進之由行出所預之可有

津前債及津預之度在之預書

凡調節之法内之念おる作之今日

以勅定其の土波下野を松口以爲る居
志賀貞形次郎お兼の用人保田謙平
西今より至

朝鮮國より 所用之金額は五分

追々申預り前貸金は 作付

誠以難有仕合申右

所恩澤と云彼國預申之取之波

前貸金は信近年一先貸出進之至

彼國不一形出精之取之志

有少の筆書
朝鮮國令款及五分
追々申預り前貸金は
誠以難有仕合申右
所恩澤と云彼國預申之取之波
前貸金は信近年一先貸出進之至
彼國不一形出精之取之志

所買明は成下の通商者法請之

四拾貫目同之前五拾之貫式白月預

お納之後五拾八貫目白月預お納之

作之此預より進之拾之貫式白月預

お納其餘拾八貫目白月預

お達し運付着御事令所は至

の取了仕の左の得を尚七月法前貸

取後之納之五拾之貫式白月餘之

お必の當年中之貫目初合百六拾

毎年申預り前貸金は
五方式の五の四と六年
賦刻令通商者法請之
お納之後五拾八貫目白月預
お納之餘拾八貫目白月預
お達し運付着御事令所は至
の取了仕の左の得を尚七月法前貸
取後之納之五拾之貫式白月餘之
お必の當年中之貫目初合百六拾

之貫目預納のりにお成際立格限
出進のりお成前債の助成
及補理のりお成前債の助成
織のりお成前債の助成
十分出増のりお成前債の助成
取の前債の助成
お成のりお成前債の助成
取の前債の助成
折入惣合のりお成前債の助成

高の敷のりお成前債の助成
お成のりお成前債の助成
捨並耐又お成前債の助成
本年のりお成前債の助成
お成のりお成前債の助成
お成のりお成前債の助成
お成のりお成前債の助成
お成のりお成前債の助成
お成のりお成前債の助成
お成のりお成前債の助成

永續之道お誘度矢猛お心得中
從來不也意も勝も向不時非常之
用途差漢自之も作思お心得中
之編殘念も仕合甘お就吏一両中
お達山吹合山書頁上代も之来未
年賦上納前も自式子五百ある紙
お納度甘お山毎も之多も預年
山府山場大前山章之紙

御分明に感下興高新規列産之

金三の由山前貸山

作付に感下通納之志例に通来

未年より拾年賦吹合諸書頁上代

之も差越通納仕百一金月不足之

節之年一之通受合之可致之

内之も割合之通通納仕度甘願

然上之紙

御差被國預中も之貸帳を承

永續出進も基本にお互不私安心

市鑑察以下
市仁惠市沙海海作以上

市谷日

十二月十九日

志賀目那六郎

右料身日向市切上之市也

戊午三月廿四日

野州市領分百町市山也
移地也 年未之也 揚正月之也

市貨多波

市居元 市兩判之市也
以去市之法市也
市之市也 市之市也
市之市也 市之市也
市之市也 市之市也

但獲負物 後發之及市也

格之市也 又之市也

拙者市也 為北之市也

村より并同國に於て幼少の院願に於て
指式より村に譲りて去る玉に此後院式を指式
甲申申元為打中より春元月廿九日迄
打去付大後院に後院指式より院
寺存中達心以

三月廿四日 寺名

右料儀大寺書物六包並渡儀

寺名

覺

一 猪 七足
一 鹿 拾八足
一 猪 七足
右通打留り并中寺去心

寺名

三月廿四日 志賀島巡行

右料儀日向寺六包並渡儀

乃中為場沙助成以貸財之進
沙津信年賦送納之令去也年
百二拾五回實年百五拾回四年成
沙津信之付回實年百五拾年三年
百五拾回實年百五拾年三年成
式之百二拾回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成

成納之原之形沙津信之金之持全一且
乃中為場沙助成以貸財之進
沙津信年賦送納之令去也年
百二拾五回實年百五拾回四年成
沙津信之付回實年百五拾年三年
百五拾回實年百五拾年三年成
式之百二拾回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成

宿場沙助成以貸財之進
乃中為場沙助成以貸財之進
沙津信年賦送納之令去也年
百二拾五回實年百五拾回四年成
沙津信之付回實年百五拾年三年
百五拾回實年百五拾年三年成
式之百二拾回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成

有沙津信
書回之類之容易
乃中為場沙助成以貸財之進
沙津信年賦送納之令去也年
百二拾五回實年百五拾回四年成
沙津信之付回實年百五拾年三年
百五拾回實年百五拾年三年成
式之百二拾回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成
沙津信之付回實年百五拾年三年成

及坂而揚助... 令五... 三... 者... 子... 方... 村... 勇... 一... 池... 廣... 二... 三... 村... 中... 當...

辛丑月

美濃史... 延納... 難... 延納... 難... 延納... 難... 延納... 難... 延納... 難... 延納... 難...

御代... 朝鮮... 延納... 難... 延納... 難... 延納... 難... 延納... 難... 延納... 難...

清心息念成十何分也極意以
清慈淨穆之通
清國海之善後海以多穆之
以上

清名也

三月廿七日

志賀貞忠所

右料紙日向寺包紙

賞

一金少兩

江化二年三月廿七日法成院池田為善

清心息念成十何分也極意以

清國海之善後海以多穆之

以上

志賀貞忠所

○殘金四百三拾兩

通細糸也清心也

一金貳少兩

赤氷元申年三月七日沙代店寺西
並沙代店沙代扱由之沙代買酒扱年
賦込納金 以分並之程之由是之扱
沙掛之

内八百八拾兩

去申年より進之進納は

残金百貳拾兩

〇内九百兩

進納金お滞り

一金百兩

赤氷三戌年三月七日沙代店寺西
並沙代店沙代扱由之沙代買酒扱年
賦込納金 以分並之程之由是之扱
沙掛之

内百五拾兩

去子年より進之進納は

残金八百五拾兩

〇内四百五拾兩

延細前右清兵少分

右山内甚少大勢在法掛分

一 延細前右百兩

江化業年正月廿九日法代座の上

及一新兵少少掛向法代座の上

掛年賊延細前 以月迄之延今内

要江掛而掛分

内九百貳拾兩

去年年々々々々々々々々々々々

○ 延細前右百八拾兩

延細前右清兵少分

右今内要江掛而掛分

○ 平書

大々々々々々々々々々々々々々々々

右村紙日向々々々々々々々々々々々

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be stylized or abbreviated. The overall appearance is that of a historical record or a personal journal entry.

